

多文化共生意識の醸成を目指した「つながる菊Caféプロジェクト」



キーワード

多文化共生、外国につながる子どもと大人、文化の相互理解、ライフキャリア、SDGs

○取り組んだきっかけ

静岡県内で最も外国人の人口比率が高い菊川市では、多文化共生社会を目指し、課題となっている3つの壁(言葉・心・体制)の解決のために様々な策を講じている。このように多文化共生を積極的に進めている菊川市において、院生らとともに、共生を模索した調査研究や、外国につながる子どもたちの教育課題解決に向けた活動に10年近く関わってきた。

その中で、言葉や進路に関する教育課題とともに、私達日本人側に潜在するステレオタイプ的なものの見方や自文化中心主義的な考えが気になり、相互理解の途を模索していた。

そんな折に、菊川市からゼミ学生等地域貢献事業にて外国人住民の生活問題解決に関わる調査研究を行う機会を与えていただき、そこで大人のための日本語教室を提案したところ、なんと実現していただけたのである。さらに、日本語教室で同じ志を持つ方々と出会い、市民や学生とプロジェクトを立上げ、積極的に多文化共生に関する活動を行うようになった。

★講座の様子<これまでの講座の振り返りをふくめて>

・講座では、対話を重視したワールドカフェ、実体験、様々なワークショップ等を取り入れている。このような参加型の講座にすることで年代が違っても、文化背景が違っても、多様な人と快くつながることができると考えたからである。

・体験型のアクティビティを昨年度以上に多く取り入れたり、クッキングやペーパーワークなどの体験を実施したところ、親子の参加、若者の参加が増えて、活気ある講座となった。

・外国人住民(ブラジルの方々)を対象に行った交流講座は、国を絞ることで、言葉や生活習慣等の配慮ができ、理解が深まったからか、「楽しく交流ができて良かった」という参加者の感想が多々あったので、今後は他の国々(例えばフィリピンやベトナムなど)の方々を対象にした講座を実施したいと考えている。



○活動の目的

- ・体験と交流による講座を通して、世界の様々な生活文化や課題についての理解を深める。
- ・対話や協働を通して、未来を生き抜く力(課題解決、人間関係調整、多様性受容等)を育む。
- ・互いの意見を尊重し受け入れることができ、安心して意見が言えるコミュニティをつくる。

➡ 市民の多文化共生意識を醸成する。心の壁をなくす!

○具体的な内容

★講座の内容(昨年度)

- (毎月第4土曜日の午後 於:菊川市役所東館プラザきくる)
- 第1回 初夏のお茶会 -茶道体験(いただく・点てる)-
 - 第2回 食が紡ぐ幸せのかたち-ウェルビーイング-
 - 第3回 世界のお茶を体感しよう-Tea tasting & Dialogue-
 - 第4回 トイレを通して考える生活文化の違いとSDGs
 - 第5回 言葉から見る世界の文化 -見える文化と見えない文化-
 - 第6回 菊Café簡単クッキング 日本風ハロウィンを楽しもう
 - 第7回 ファッションを通して考えるSDGs
 - 第8回 かんたんCooking 世界と日本のクリスマス
 - 第9回 外国につながる子供の進路を考える
前半:就職・進学を経験した若者からのメッセージ
後半:日本文化のミニ体験(日本のお茶と遊び)
 - 第10回 春のお茶会-みんなで茶道体験(いただく・点てる)-
- ※対象:中学生以上(誰でも可) 小学生以下は親子参加ならばOK
※募集人数:1回 20~30名(条件は内容や会場の規模による)



○期待される効果

- ・各々の文化の違いや共通点に気付くことから文化の相互理解が進み、日本で生活する上でのルールや習慣を学ぶことができ、近隣との摩擦やトラブルなどの解決につながる。
- ・交流を通して、やさしい日本語でのコミュニケーションをするよう心がけるようになり、以前よりも意思疎通ができ、お互いの信頼が高まり、生活の質の向上が見込まれる。
- ・様々な生活課題を知り解決を考えることで、多文化共生のまちづくりの礎となる共生意識が醸成され協働意識が高まる。
- ・様々な世代との協働活動を通して、社会の中で円滑な人間関係を維持するのに必要な能力など、未来を生き抜く力を身につけることができる。

活動により期待できると考える効果

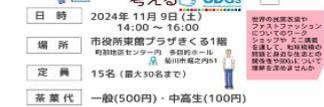
摩擦やトラブルの解決

生活の質の向上

共生意識の育成

円滑な人間関係

地域住民の一体感



大学院 学校教育研究科・教授
星野洋美



連携先: 菊川市役所地域支援課 菊川市市民協働センター
JICA浜松デスク(浜松国際交流協会)
JICA静岡デスク(静岡県国際交流協会)